

第2期

はままつ産業イノベーション構想

浜松市産業部

■ 構想の構成

第1章 構想の趣旨

1. 背景、位置づけ、目的、計画期間

第2章 イノベーションを取り巻く現状と課題

1. イノベーションを取り巻く社会潮流と社会課題
2. 本市のイノベーションを取り巻く現状と課題
 - (1) 製造品出荷額等の推移
 - (2) 労働生産性の推移

第3章 本市の目指す姿

1. 目標、基本方針
2. イノベーション創出の概念図
3. 重点支援すべき7つの成長分野
4. 基本戦略
 - (1) 支援施策の体系整理
 - (2) 基本戦略

第4章 構想の推進にあたって

1. 推進体制
2. 進捗管理

■ 第1章 構想の趣旨

1. 背景

- 「はままつ産業イノベーション構想」策定から目標年次の10年が経過 [令和3年度]
- 地域産業を取り巻く社会的、経済的環境は大きく変化 **“ニューノーマル（新しい生活様式）”**
- 外部環境変化への対応 **“カーボンニュートラル” “デジタル化”**
- 社会変容にいち早く適応するレジリエントな企業が更なる飛躍 **（ピンチをチャンスに）**

2. 位置づけ

- 30年後を見据えた**市総合計画**（平成27～令和26年度）**に基づく個別計画**

[総合計画] 輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業が集積し、持続可能な地域経済が確立している。

- 本市産業の持続的な発展に向けた産業政策を展開するための**“イノベーション創出の産業ビジョン”**

3. 目的

既存のモノ・仕組みに新たな技術・アイデアを取り入れ、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことで、地域企業が大きな変化を捉え、自社の強みを生かした、イノベーションを実現し、**本市産業の持続的発展を目指す。**

4. 計画期間

- 計画期間：令和4年度～令和8年度（5年間）
- **10年後の成長産業を見据え、5年間の計画を策定。**

■ 第2章 イノベーションを取り巻く現状と課題

1. イノベーションを取り巻く社会潮流と社会課題

■ 社会・経済潮流

- 東アジアはじめ新興国の経済成長・マーケット拡大
- 資源制約・環境制約の拡大に伴う持続可能な経済活動の要請
- デジタルテクノロジーの発展に伴う資本集約型経済から知識集約型経済へのシフト
- 新製品・新サービスの出現に伴うパラダイムシフト
- デジタルテクノロジーを巡る米中を中心とした覇権争い、地政学的リスクや保護主義的傾向の高まり
- 地球温暖化に伴う世界的な気候変動とインフラやサプライチェーンのレジリエンス強化
- わが国を筆頭に先進国で進む高齢化・長寿命化
- 少子化・人口減少に伴う国内の労働力減少、国内市場縮小
- 先進国はじめ世界的にみて低位な国内の労働生産性 など

■ 新型コロナによる影響

- 物理的接触回避に伴う社会経済活動の縮小・停止
- 公衆衛生危機と至急対応の要請、デジタル化によるニューノーマル（新しい働き方、暮らし方、ビジネスモデル）への移行・対応
- 社会課題を起点とした経済復興（グリーン・リカバリー） など

着目すべき社会課題

人口減少・高齢化

- 労働人口減少
- 市場規模縮小
- 人生100年時代 など

地球温暖化

- サステナビリティ
- サーキュラーエコノミー
- カーボンニュートラル など

新しい生活様式

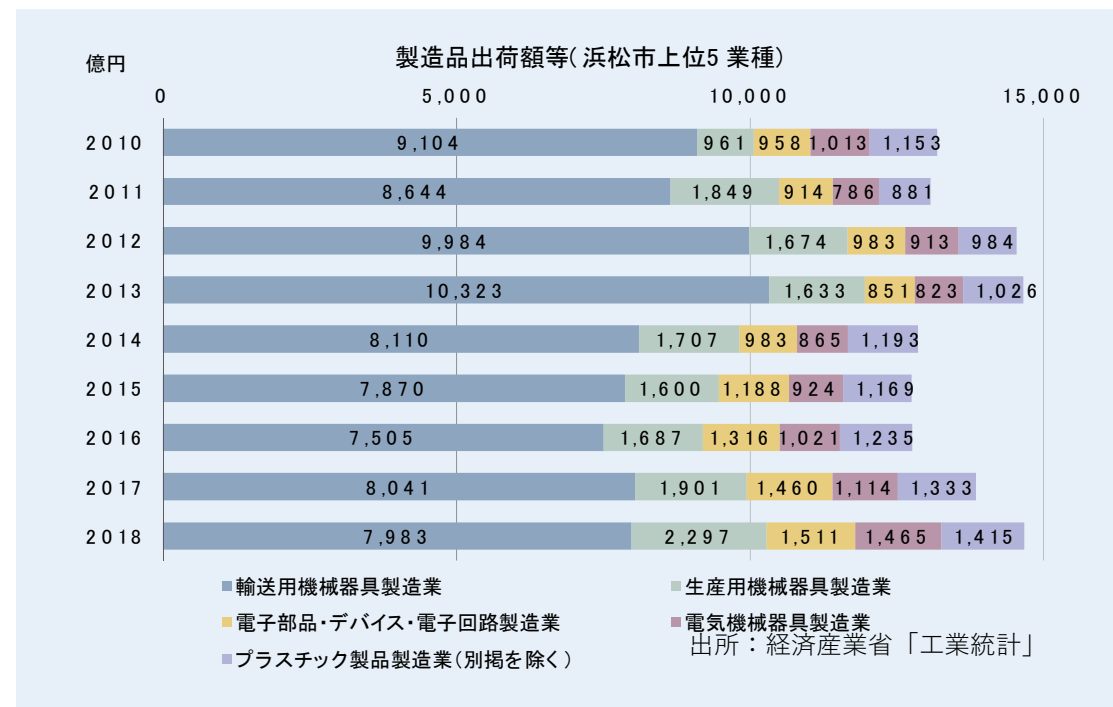
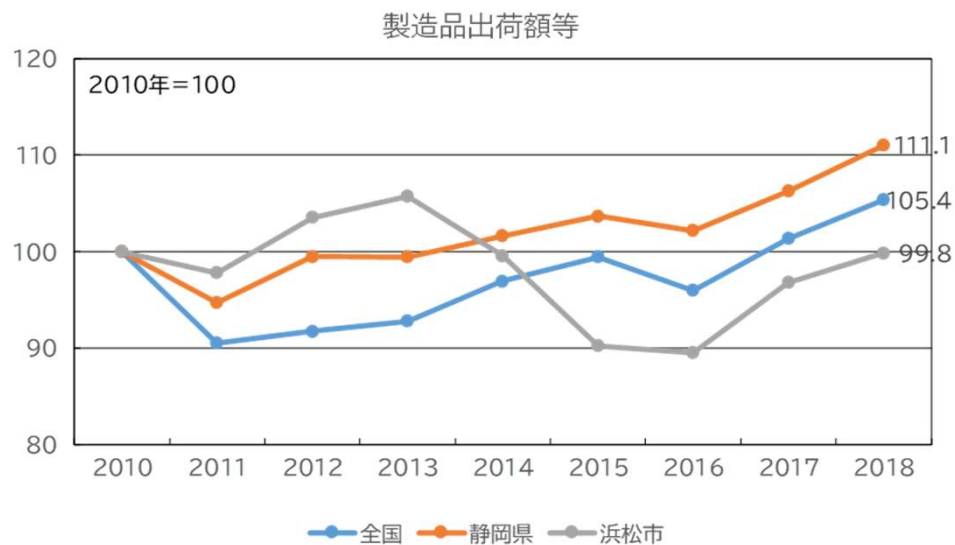
- 非対面・非接触
- 多様な働き方
- 行動抑制・行動制限 など

第2期はままつ産業イノベーション構想

■ 第2章 イノベーションを取り巻く現状と課題

2. 本市のイノベーションを取り巻く現状と課題 (1) 製造品出荷額等の推移

2010年以降製造品出荷額は“横ばい”傾向にある



[その他マクロ経済分析 (市内)]

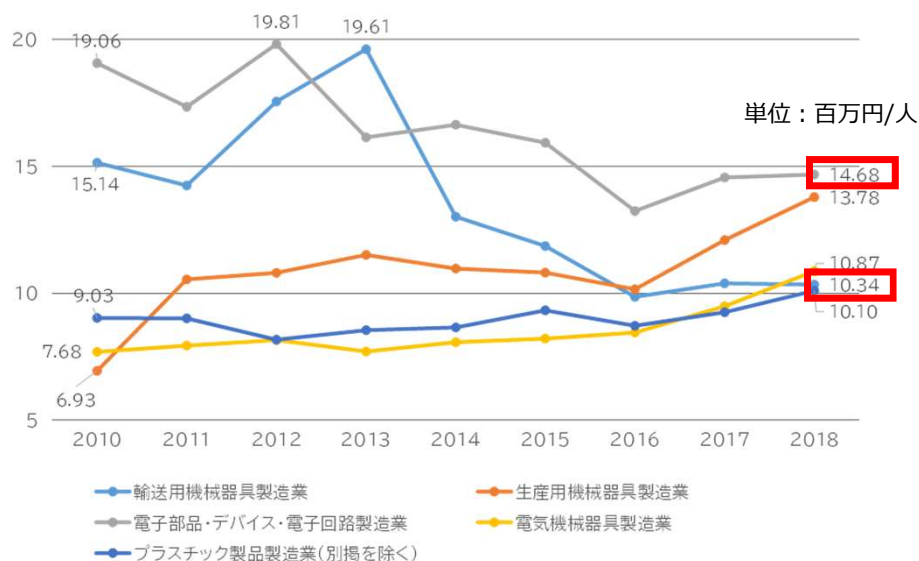
- ・ 事業所数は減少傾向
- ・ 従業員数は全体としては減少するも限定的
- ・ いずれの業種も事業所規模を拡大する傾向

第2期はままつ産業イノベーション構想

第2章 イノベーションを取り巻く現状と課題

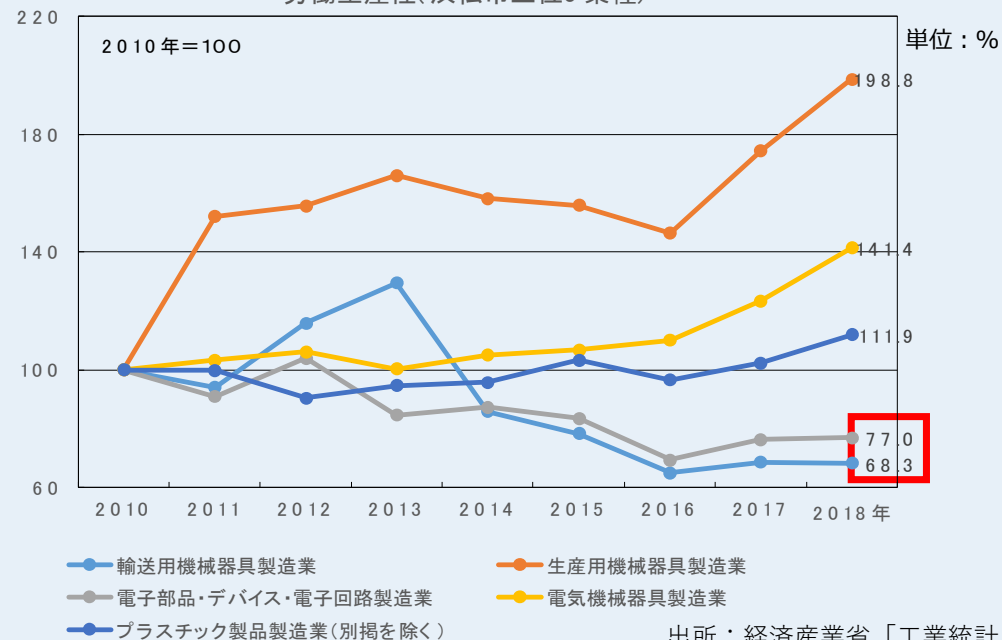
2. 本市のイノベーションを取り巻く現状と課題 (2) 労働生産性の推移

製造業の労働生産性の一人あたりの動向 (浜松市上位5業種)



出所：経済産業省「工業統計」

労働生産性(浜松市上位5業種)



出所：経済産業省「工業統計」

- 輸送用機器製造業：有形固定資産の稼働低下と製品の低価格化が労働生産性低下の主因と想定。
- 電子部品・デバイス・電子回路製造業：付加価値率の低下。製品の低価格化が労働生産性低下の主因と想定。

第2期はままつ産業イノベーション構想

Hamamatsu Industry
Innovation Initiative

第3章 本市の目指す姿

1. 目標、基本方針

目標 産業イノベーション都市・はままつ

新型コロナウイルスによる社会変容、デジタル技術の発展そしてカーボンニュートラルにより加速した電動化への取り組み拡大等大きな社会変化の中、本市産業が持続的に発展するため、積極的な産業政策が必要となっている。各企業が自社の強みを生かし、革新的な新興企業等と連携して社会課題を先導的に課題解決することで、イノベーションの実現を図る。将来的には世界的企業・オンリーワン企業が生まれ育つ都市、さらには成長分野など新たな事業に果敢に挑戦する企業が集積する「産業イノベーション都市・はままつ」を目指す。

基本方針

成長市場・新産業の創出

本市の製造品出荷額等は全国に比べ減少傾向が強く、労働生産性も低下傾向にある。そのため、既存市場・産業に次ぐ成長市場・新産業を創出することで複合的な産業構造への転換を図り、本市産業の持続的な発展を目指す。

- ① 7つの成長分野への取組みを重点支援 ② 地域の「稼ぐ力」の向上支援

1 7つの成長分野への取組みを重点支援

- | | | | | | | |
|-----------|--------|------|-----------|-------|-------|---------|
| ①次世代輸送用機器 | ②健康・医療 | ③新農業 | ④環境・エネルギー | ⑤光・電子 | ⑥デジタル | ⑦ロボティクス |
|-----------|--------|------|-----------|-------|-------|---------|

人口減少・高齢化、地球温暖化、新しい生活様式等の社会課題の解決や“ニューノーマル”、“デジタル化”及び“カーボンニュートラル”などの社会変革の対応に資する7つの成長分野への市場進出・拡大及び技術革新などの取組みを推し進める。

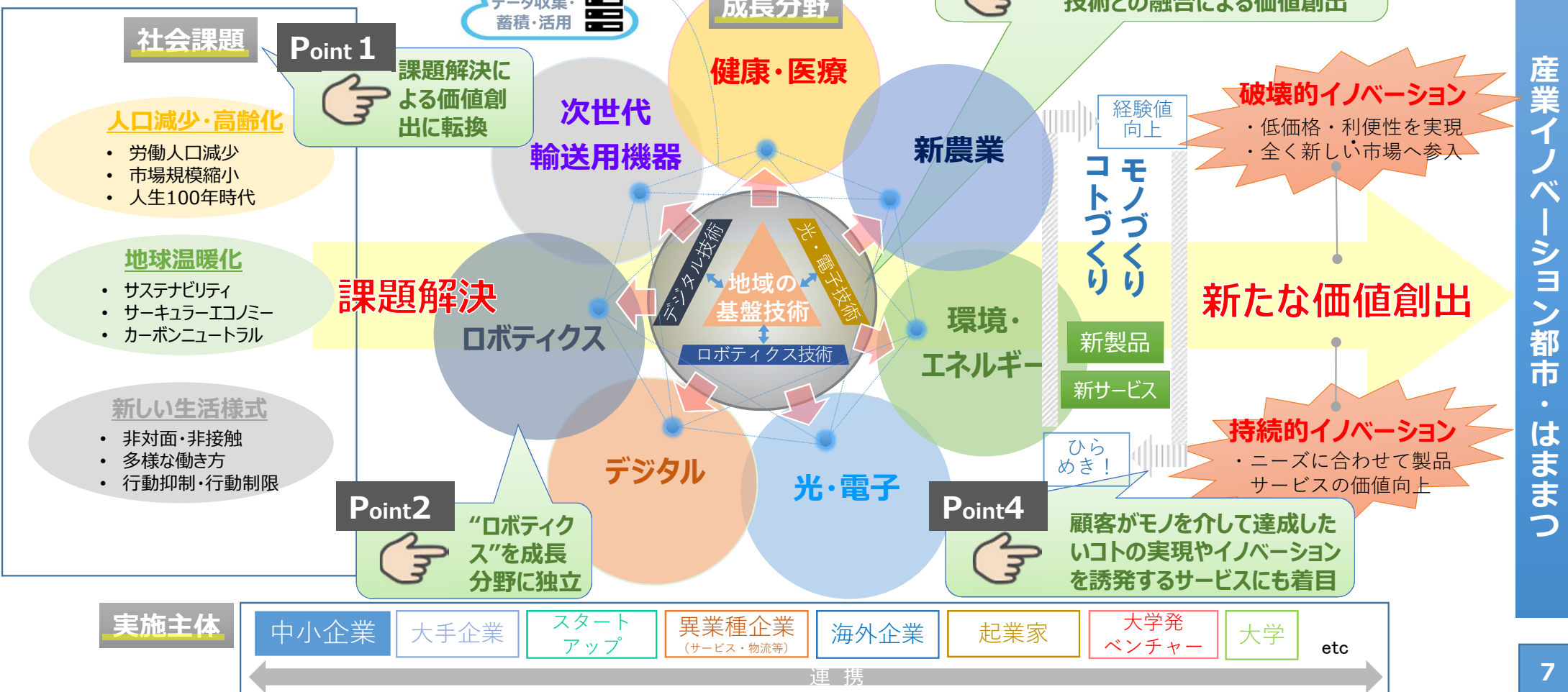
2 地域の「稼ぐ力」の向上支援

光・電子、デジタル、ロボティクス技術の活用、経営面や技術面で中心的な役割を担う人材の育成、資金調達支援等により、労働生産性の向上やコトづくりによる高付加価値なモノづくりを実現することで、地域の「稼ぐ力」を高める。

第2期はままつ産業イノベーション構想

第3章 本市の目指す姿

2. イノベーション創出の概念図



第2期はままつ産業イノベーション構想

■ 第3章 本市の目指す姿

3. 重点支援すべき7つの成長分野

各分野の支援の方向性・成長有望領域

成長分野

次世代輸送用機器

既存の輸送用機器関連の技術集積・蓄積を活かし、新たな技術の習得・集積や高度化の促進を目指す。特に、脱炭素への対応を主眼とした自動車の電動化、さらに高度化する自動化・デジタル技術を取り込んだCASEの加速が見込まれ、同領域を重点的に取り組みを進める。

【成長有望領域】

- 次世代自動車（EV・PHV・FCV、自動化、シェアリング、MaaS等）
- スマート物流（ドローン、配送ロボット等）
- 宇宙輸送ビジネス（人工衛星ビジネス等）

健康・医療

地域の基盤技術の転用や蓄積された先進的な医学・医療関連技術との融合により、地域医療の現場等における具体的なニーズに基づく医療分野・介護支援分野での事業化・製品化を図る。あわせて健康寿命延伸に係るアンチエイジング、ウェルネスなどの事業化・製品化を図ることで、新たな健康・医療産業の創出を目指す。

【成長有望領域】

- 医療・生活支援ロボット
- 生体情報モニタリングデバイス
- 遠隔医療・遠隔診断
- 特定疾患・疾病治療
- 健康管理・予防サービス（HaaS）
- 再生医療・細胞（美容領域）

新農業

工業技術やIoT・AI技術等を取り入れた次世代農業（スマート農業）への取組を支援し、革新的な高付加価値型産業への転換を図る。安全・安心な農林水産業ビジネスを創出し、6次産業化を促進する。

【成長有望領域】

- 次世代農業用機器（自動運転農機、収穫ロボット）
- 植物工場（人工光型、太陽光併用型）
- スマート農機のリース・シェアリングサービス
- データ連携基盤等の活用による高度生産管理・流通システム
- 鮮度保存システム

環境・エネルギー

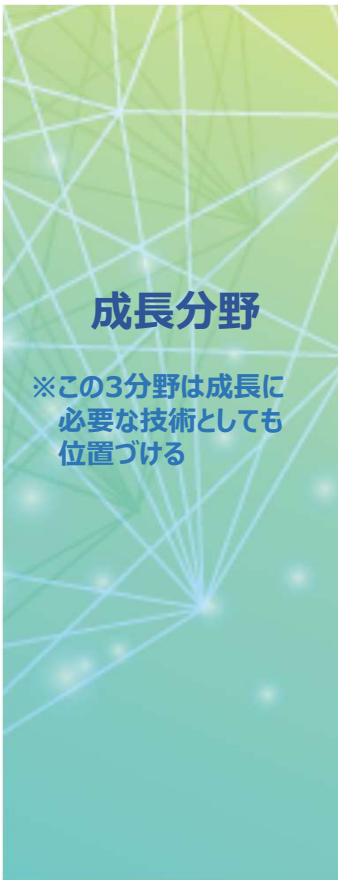
カーボンゼロを実現するため、再生可能エネルギーの導入・利用拡大、高度化されたエネルギー・マネジメントによる徹底した省エネなど、グリーンテクノロジーを活用したイノベーションの創出を目指す。

【成長有望領域】

- 再生可能エネルギー等発電産業
- 水素関連産業
- 次世代熱エネルギー
- スマートグリッド
- 環境負荷軽減サービス
- エネルギー貯蓄システム

■ 第3章 本市の目指す姿

3. 重点支援すべき7つの成長分野



成長分野

※この3分野は成長に必要な技術としても位置づける

光・電子

デジタル

ロボティクス

各分野の支援の方向性・成長有望領域・基盤技術

光・電子技術に関連する中核企業やその関連企業が集積し、国際的な優位性を持つ。光・電子技術はあらゆる産業の基盤技術であり、量子領域を見据えた新技術・新事業創出を図り、世界をリードする「フotonバレー」の創出を目指す。

【成長有望領域】 ○レーザー関連装置 ○電子機器 ○宇宙関連産業 ○次世代輸送用機器・健康医療・新農業等の他分野連携 ○量子コンピュータ・量子セキュリティ

【基盤技術】 ○センシング・モニタリング技術 ○レーザー加工技術 ○光波制御・光デバイス技術 ○画像処理・画像診断システム ○量子制御・センシング技術 ○量子通信・暗号技術

デジタル分野はあらゆる産業の基盤となる汎用性の高い領域である。ものづくりをはじめとする地域産業のイノベーションを促すに必要なエコシステム構築に必要不可欠な産業である。ものづくりのノウハウとデジタル技術の融合により、新技術・新事業の創出を目指します。

【成長有望領域】

○自動観測、モニタリングシステム ○映像、音声、ゲーム等のコンテンツ産業 ○SNS ○クラウドサービス ○データ情報サービス ○エネルギーマネジメント ○資源探査システム ○インフラ監視システム ○安全防災マネジメントシステム ○生産システム ○3次元プリンタ

【基盤技術】 ○CAD・CAE・MBD ○ネットワーク設計 ○3次元CG ○ビッグデータ解析 ○ICT技術 ○IoT・AI技術 ○セキュリティ技術

ものづくりの現場を支えるロボットシステムインテグレーターの集積を活かし、オートメーション化を促進するとともに、重労働の現場の負荷軽減や定型作業の効率化など、ソーシャルビジネス分野への展開を図ることで、ロボット産業の更なる集積を目指す。

【成長有望領域】 ○スマートファクトリー（協調ロボット、製造システム等） ○ソーシャルロボット（医療・介護支援、日常生活支援等） ○パワーアシストスーツ・増幅スーツ ○ドローンビジネス（点検・計測・物流・調査・散布等）

【基盤技術】 ○各種センサ（画像・検知・触覚等） ○制御モータ ○ロボット筐体・素材 ○制御プログラム

第2期はままつ産業イノベーション構想

7つの成長分野と技術のマトリクス (例)

※各成長分野において表中の技術（前ページの基盤技術等）を活用して生み出す製品サービスの例示を記載

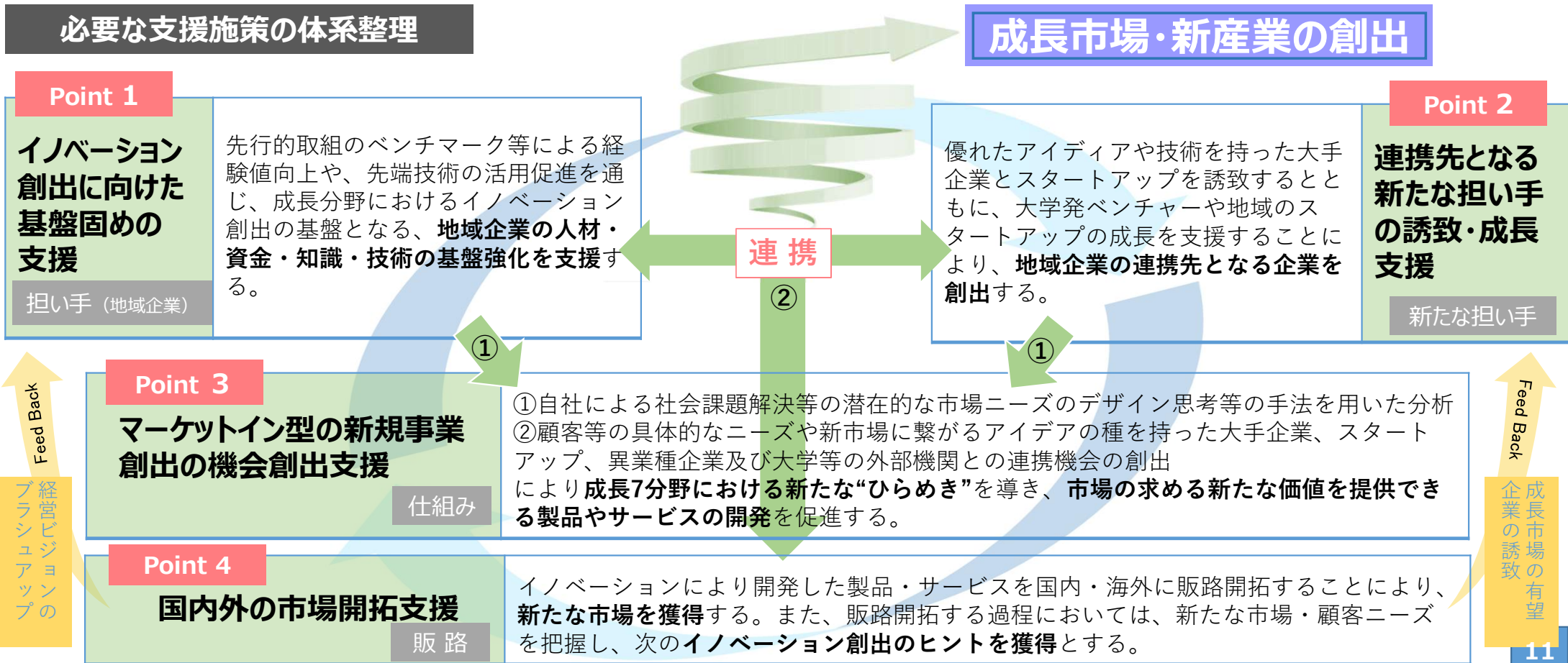
技術	成長分野	次世代輸送用機器	健康・医療	新農業	環境・エネルギー	光・電子	デジタル	ロボティクス
光・電子 技術		<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転（カメラ・レーザー・センサー） ○レーザー異種部材接合 ○ミリ波レーダー ○モータ制御 ○自動計測、自動検査 ○画像処理認識 ○多機能ヘッドライト ○ヘッドアップディスプレイ ○自動運転建設機械 ○人工衛星ビジネス 	<ul style="list-style-type: none"> ○生体情報モニタリングデバイス ○画像診断 ○血液分析 ○PET/CT/SPECT ○レーザー療法 ○医療用レーザーメス ○除菌滅菌不活化 ○スポーツ計測システム ○健康チェックアプリ ○低侵襲治療（内視鏡、カテーテル） 	<ul style="list-style-type: none"> ○完全人工光型植物工場 ○漁獲向上関連センサ技術 ○生育環境計測制御 ○非破壊品質検査（糖度、タンパク質、機能性成分など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境配慮型照明 ○光学環境計測（菌・微生物測定、ガス分析） ○レーザークリーニング（除染） ○先進的再エネルギー（太陽光、風力、バイオマス） ○無線給電 ○レーザー核融合 ○再生エネルギー由来のEV急速充電器 		<ul style="list-style-type: none"> ○光学3Dプリンタ ○VR、AR、XR ○ヘッドマウントディスプレイ ○量子通信、暗号技術 ○光コンピュータ ○顔表情・動作認識 ○オンライン授業 ○キャッシュレス決済 ○バーチャルツアーシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロボットビジョン ○光学センサ情報によるロボット制御 ○モーションキャプチャ ○アバター ○産業用ロボット ○プラント計測・設計
	デジタル 技術	<ul style="list-style-type: none"> ○MaaS ○カーシェアリング ○輸送機器（自動車、ドローン）等の遠隔モニタリング及び制御 ○CAD、CAE、MBD ○3Dプリンタ ○宇宙輸送ビジネス ○スマートファクトリー、コネクティッド 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン問診診療、オンライン服薬指導 ○健康管理、予防サービス（HaaS） ○IoT見守り支援 ○遠隔リハビリテーション ○3D画像処理 ○メディカルDX ○生活習慣病対策サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営支援システム、アプリ ○生鮮食品のスマート輸送（トレーサビリティ管理） ○スマート農機のリース、シェアリング ○データ連携基盤等の活用による高度生産管理、流通システム 	<ul style="list-style-type: none"> ○リサイクル促進、ごみ減量促進アプリ ○バーチャルパワープラント ○エネルギーマネジメントシステム（BEMS、FEMS等） ○スマートグリッド ○スマート保安 ○i-Construction 	<ul style="list-style-type: none"> ○IoTデータ取得、伝送関連技術 ○リバースエンジニアリング 		<ul style="list-style-type: none"> ○AIによるロボット制御 ○スマートファクトリー ○エッジコンピューティング ○IoT活用による暗黙知の形式知化（技能の技術化）
	ロボティクス 技術	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転システム ○スマート物流（ドローン・配送ロボット） ○部品加工ロボット ○ロボットタクシー ○隊列自動走行 ○自動運転船 	<ul style="list-style-type: none"> ○医療ロボット ○調剤支援ロボット ○自立支援ロボット ○介護解除支援ロボット 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地利用型農業（米、麦等）における作業を自動化・軽労化する遠隔操作型・自立作業型ロボット ○各種センサーやアクチュエータの分散配置によりデータモニタリング、環境制御、品質評価、仕訳等の作業を自動化・軽労化するロボット、搾乳ロボット ○選果・選別ロボット 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境調査用ロボット ○防災、災害復旧ロボット ○V2X 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドローン、ロボットによる自動撮影 ○レーザー加工工程（溶接、切断、焼き入れ等）のロボット化 ○検査工程の自動化（画像処理・AI活用） ○インフラ点検システム 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラウドロボティクス ○クラウドロボット用高性能小型アクチュエータ 	

第2期はままつ産業イノベーション構想

■ 第3章 本市の目指す姿

4. 基本戦略 (1) 支援施策の体系整理

必要な支援施策の体系整理



■ 第3章 本市の目指す姿

4. 基本戦略 (2) 基本戦略

区分	戦略	重点ポイント
仕組み Point 3	① オープン・イノベーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイン思考等によるユーザー視点に立った製品・サービス開発強化 ● スタートアップ、大学、異業種との連携等による新事業展開の促進 ● 社会課題解決型ビジネスの創出促進
担い手 (地域企業) Point 1	② 企業力の向上支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の革新的な経営・新事業展開・デジタル化を担う人材の育成・活用支援 ● 先端技術の活用促進による地域産業の「稼ぐ力」の向上支援 ● VUCAに対応できる地域産業のレジリエンスの強化 ● 多様な資金調達手段の活用支援
新たな担い手 Point 2	③ スタートアップ支援	<ul style="list-style-type: none"> ● スタートアップの創出 ● スタートアップの誘致 ● スタートアップの成長支援 ● 地域との融合によるイノベーションの創出
Point 2	④ 企業集積支援 (誘致・立地・創業)	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略的な企業誘致・立地支援 ● 立地環境の整備 ● 創業支援
販路 Point 4	⑤ 市場創出支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内販路開拓支援 ● 海外販路開拓支援 ● 海外進出支援体制の連携強化 ● 知的財産の活用促進

※支援施策はすべての戦略において、成長7分野を網羅して事業を実施する。

第2期はままつ産業イノベーション構想

Hamamatsu Industry
Innovation Initiative

■ 第3章 本市の目指す姿

戦略1 オープン・イノベーションの推進 Point 3 仕組み

大手企業、スタートアップ、異業種企業及び大学等の外部機関との連携機会の創出により、成長7分野における新たな“ひらめき”を導き、真に市場の求める価値を提供できる製品やサービスの開発を支援します。

● デザイン思考等によるユーザー視点に立った製品・サービス開発強化

・デザイン思考等に基づく新事業展開のプロセスを実践的に学ぶ機会の提供

● スタートアップ、大学、異業種との連携等による新事業展開の促進

・様々な開発ニーズやアイデア等を有するスタートアップ、大学、異業種とのマッチング機会の創出の支援

・コーディネーター等による新事業展開・事業拡大支援

● 社会課題解決型ビジネスの創出促進

・大学の研究者、企業内人材、起業家、学生等が自由な議論、先端的技術の共同研究に取り組む機会の提供

・実証実験による革新的なビジネスの創出・検証

戦略2 企業力の向上支援 Point 1 担い手 (地域企業)

イノベーションの創出の基盤となる、地域企業の人材・資金・知識・技術等のさらなる強化を支援します。

● 企業の革新的な経営・新事業展開・デジタル化を担う人材の育成・活用支援

- ・人材育成（次代の経営人材、新事業展開・デジタル化の中核人材、製造現場のリーダー）
- ・外部の専門・高度人材の活用支援
- ・技術スキルの向上、研究開発の支援

● 先端技術の活用促進による地域産業の「稼ぐ力」の向上支援

- ・光・電子技術の導入・活用促進
- ・デジタル技術の導入・活用促進
- ・ロボティクス技術の導入・活用促進

● VUCAに対応できる地域産業のレジリエンスの強化

- ・多様な事業リスクに対応する経営戦略を学ぶ機会の提供
- ・事業承継・事業再構築支援

● 多様な資金調達手段の活用支援

- ・競争的資金の活用支援
- ・金融機関等の融資・ファンド・クラウドファンディング等の活用支援

■ 第3章 本市の目指す姿

戦略3 スタートアップ支援

Point 2

新たな担い手

スタートアップが生まれ、集まり、育つエコシステムを持つ都市「浜松バレー」の実現を目指すとともに、スタートアップのアイデアとものづくり技術を融合させ、革新的なイノベーションを生み出します。

● スタートアップの創出

- ・起業を後押しする環境の整備
- ・大学や研究機関の研究シーズの事業化
- ・若手人材へのアントレプレナーシップ教育の強化

● スタートアップの誘致

- ・情報発信力の強化
- ・本市進出の機会づくり
- ・本市に進出するスタートアップがビジネスをしやすい環境の整備

● スタートアップの成長支援

- ・スタートアップの経営力強化
- ・資金調達環境の整備

● 地域との融合によるイノベーション創出

- ・積極的なスタートアップとの連携や先端技術の活用
- ・オープンイノベーション拠点、ネットワークの活性化

戦略4 企業集積支援（誘致・立地・創業）

Point 2

新たな担い手

成長分野における企業をターゲットに企業誘致等を戦略的に推進するとともに立地環境を整備します。また、創業・開業・起業・第二創業、新事業展開を目指す方をトータル的に支援します。

● 戦略的な企業誘致・立地支援

- ・成長分野の企業誘致の推進
- ・地域特性を活用した高付加価値な企業立地の支援
- ・オール浜松体制による企業誘致、立地支援

● 立地環境の整備

- ・大規模工場用地開発調査などの実施
- ・立地誘導地区など民有地を活用した工場用地の確保
- ・デジタル産業及び研究開発施設などの立地に対する環境整備

● 創業支援

- ・創業相談
- ・起業に向けての人材育成
- ・創業者のための融資、ファンド、助成金等の活用

■ 第3章 本市の目指す姿

戦略5 市場創出支援

Point 4

販路

ニューノーマル時代の市場の潮流、ニーズを掴み、国内外の市場獲得及び市場創出を図ろうとする意欲的な地域企業を支援します。

● 国内販路開拓支援

- ・見本市・商談会への出展支援
- ・新規市場開拓への支援
- ・地域産業の振興

● 海外進出支援体制の連携強化

- ・関係機関個々の強みを活かした情報提供、支援体制の構築
- ・海外政府機関との交流促進

● 海外販路開拓支援

- ・見本市・商談会への出展支援
- ・新規市場開拓・多様な取引方法への支援
- ・購買層のニーズに基づいた異業種連携の推進

● 知的財産の活用促進

- ・知的財産の創造・保護を支援
- ・知的財産を活用した経営戦略の構築支援

■ 第4章 構想の推進にあたって

1 推進体制

(公財) 浜松地域イノベーション推進機構を中核として、産学官金連携によるオール浜松体制で推進する。



第2期はままつ産業イノベーション構想

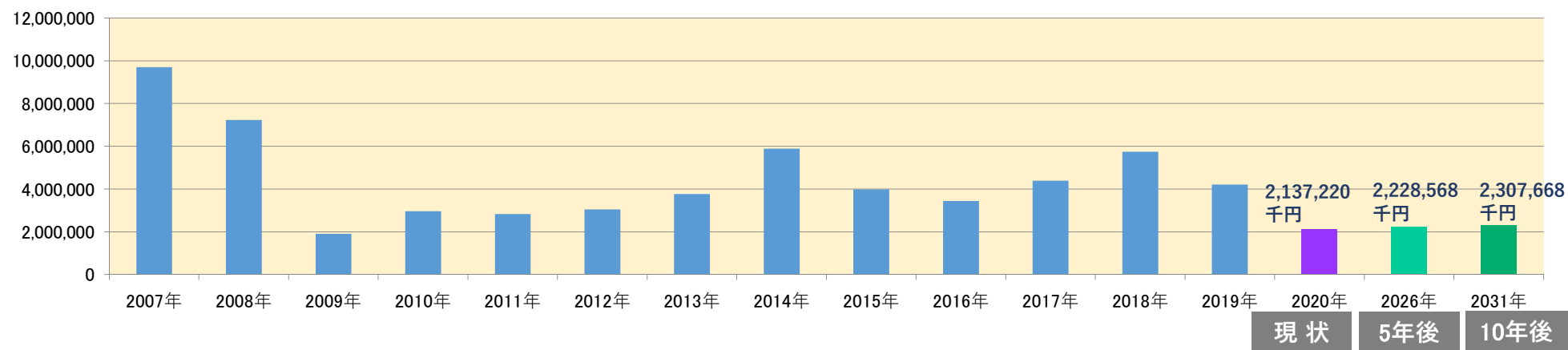
第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(1) 指標 [KGI] 指標はマイナスの社会的変化による影響が少なくかつ速やかに回復し、長期的な上昇トレンドを描くことを目指していく。

No.	指標	根拠	目標数値			算式
			現状 (2020年)	5年後 (2026年)	10年後 (2031年)	
1	法人市民税調定額 (製造業)	浜松市の市税の すがた	2,137,220 千円	2,228,568 千円	2,307,668 千円	伸率は戦略計画 に準じて年0.7% と想定)

浜松市



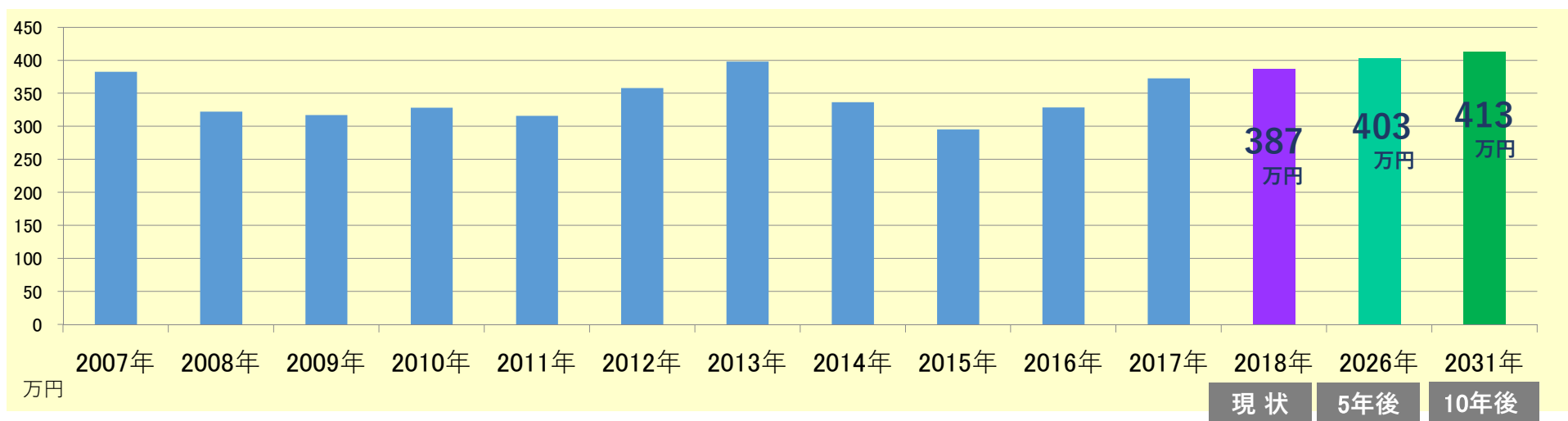
第2期はままつ産業イノベーション構想

第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(1) 指標 [KGI]

No.	指標	根拠	目標数値			算式
			現状 (2018年)	5年後 (2026年)	10年後 (2031年)	
2	1事業所あたりの粗付加価値額	工業統計調査	387万円	403万円	413万円	粗付加価値÷事業所数（伸率は市戦略計画に準じて年0.7%と想定）



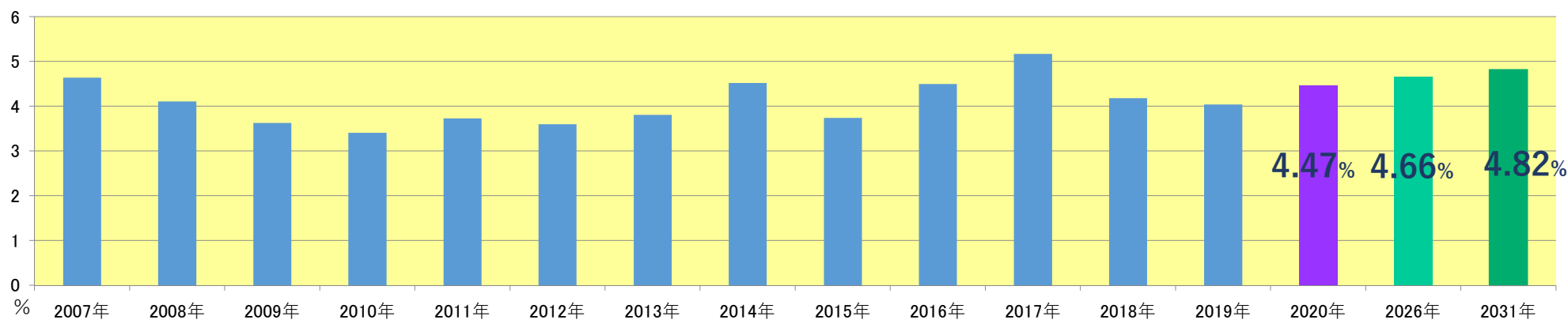
第2期はままつ産業イノベーション構想

第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(1) 指標 [KGI]

No.	指標	根拠	目標数値			算式
			現状 (2020年)	5年後 (2026年)	10年後 (2031年)	
3	開業率	浜松市の市税の すがた	4.47 %	4.66 %	4.82 %	当該年度開業件 数÷前年度法人 者数×100（伸率 は戦略計画に準じて年 0.7%と想定）



第2期はままつ産業イノベーション構想

第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(2) 指標 [戦略ごとのKPI]

戦略	指標	数値	目標数値		
			現状	5年後 (2026年度)	10年後 (2031年度)
1	支援施策による新事業プロジェクト	単年度件数	76件 (2020年度)	79件	82件
2	相談件数	単年度の相談件数	1,670件 (2020年度)	1,800件	1,800件
3	スタートアップの創業数	単年度の創業数	24社 (2020年度)	30社	30社
	市内スタートアップのファンドによる年間資金調達額	単年度の投資額	56.16億円 (2020年度) ※2019年度：11億円	40億円	50億円
	市外からのスタートアップ進出数	単年度の進出数	25社 (2020年度)	25社	30社

※2020年度は突発的な大型投資があり、2019年度と比べて大きく数字が伸びた。

第2期はままつ産業イノベーション構想

第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(2) 指標 [戦略ごとのKPI]

戦略	指標	数値	目標数値		
			現状	5年後 (2026年度)	10年後 (2031年度)
4	企業立地件数	単年度の立地件数	24件 (2020年度)	25件	25件
	創業支援事業に伴う新規創業者数	法人+個人開業数の件数	345件 (2020年度)	420件	470件
5	支援施策による商談成立件数	単年度の成立件数	10件 (2020年度)	65件	65件
	支援施策による特許出願支援件数	単年度の支援件数	8件 (2020年度)	10件	10件

■ 第4章 構想の推進にあたって

2 進捗管理

(3) 進捗管理方法

毎年、地域企業に対して、成長7分野への取組み状況等について調査を実施し、支援施策の成果を把握するとともに、地域企業の現状を把握することで、翌年度の支援施策に反映させる。

■ 年間スケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業アンケート調査											←→	
企業ヒアリング調査	←→											
分析・翌年度施策の立案 ※必要に応じ有識者から意見拝聴				←→								
翌年度支援施策に反映調整						←→						

第2期はままつ産業イノベーション構想

◎用語解説

【ニューノーマル】P2

社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着すること。

【カーボンニュートラル】P2

地球上の炭素（カーボン）の総量に変動をきたさない、CO₂の排出と吸収がプラスマイナスゼロになるようなエネルギー利用のあり方やシステムの社会実装を指す概念のこと。

【サステナビリティ】P3

物事の「持続可能性」、つまり「将来に渡って、機能を失わずに続けていくことができるシステムやプロセス」を指す。

【サーキュラーエコノミー】P3

循環経済とも呼ぶ。製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する経済システムを意味し、これまでの一方通行でモノを使う「直線経済」あらの脱却を目指す。

【レジリエンス】P3

弾力、復元力、回復力を意味する言葉。（物理的）な外の力からのゆがみを跳ね返す力を指す。

【ロボティクス】P6

ロボットの設計・製造などに関する研究（ロボット工学）およびロボットに関連した産業全般

【破壊的イノベーション】P7

市場競争のルールが根底から破壊され、既存企業のシェアが奪われるほど革新的で全く新しい製品やサービスを生み出すイノベーションを意味する。

【持続的イノベーション】P7

既存顧客のニーズに合わせ、自社製品やサービスの価値を向上させるために継続的に生み出されるイノベーションを意味する。

第2期はままつ産業イノベーション構想

Hamamatsu Industry
Innovation Initiative

◎用語解説

【スタートアップ・大学発ベンチャー】P7

スタートアップとは、新しいビジネスモデルを考えて、新たな市場を開拓し、社会に新しい価値を提供したり、社会に貢献することによって事業の価値を短期間で飛躍的に高めることを目指す企業をさす。大学発ベンチャーとは、大学の知識と技術で、今までにない商品やサービスを生み出す企業のこと。

【CASE】P8

「Connected（コネクテッド）」、「Autonomous（自動運転）」、「Shared \$ Services（シェアリングとサービス）」、「Electric（電動化）」の頭文字をつなげたものであり、自動車業界が進めるべき次世代のトレンドのこと。

【MaaS】P8

Mobility as a Serviceの頭文字を取ったもの。ICTを活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティを1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。

【ウェルネス】P8

身体健康、精神健康、環境健康、社会的健康を基盤にして、豊かな人生をデザインしていく、自己実現。

【IoT】P8

Internet of Thingsの略。あらゆるモノがインターネットにつながることによる革新を指す。世の中に存在するさまざまなモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続して相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うことができるようになる。

【スマートグリッド】P8

IT技術を活用して、電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、需要に応じて発電施設からの電力を効率よく配分する電力制御技術を持った電力網

第2期はままつ産業イノベーション構想

Hamamatsu Industry
Innovation Initiative

◎用語解説

【次世代熱エネルギー】P8

再生可能エネルギー由来等の水素とCO₂から合成される合成メタンや水素の直接利用などが考えられる、カーボンニュートラルを達成した次世代の熱エネルギー

【CAD・CAE・MBD（コンピューター支援設計・支援解析・モデルベース開発）】P9

CAD（Computer Aided Manufacturing）は、コンピューター上で設計図面や3Dモデルを作成するもの。CAE（Computer Aided Engineering:）は、ものづくりに関する研究・開発工程において、従来行われていた試作品によるテストや実験のかわりに、コンピューター上の試作品を用いてシミュレーションし分析する技術のこと。MBD（Model Based Design）は、コンピューター上で数式によって再現したモデルを用いることで、複雑な組込みシステム開発の効率化・短時間化を図る開発手法を意味する。

【V2X】P10

V2X（Vehicle to X）は、クルマと何か（クルマや歩行者、インフラ、ネットワークなど）との接続や相互連携を総称するコネクテッド技術のひとつ。

【VR、AR、XR】P10

VR（Virtual Reality）：仮想現実 AR（Augmented Reality）：拡張現実 XRとは「VR」、「AR」などの先端技術の総称で、「X」は未知数を示すもの。

【デザイン思考】P11

「ユーザーも気づかない本質的なニーズを見つけ、変革させるイノベーション思考」のこと。デザインシンキングとも。言い換えると「デザイン制作における思考方法を用い、それをビジネスや経営に活かしていくアプローチ」のこと。実際に、デザイン思考は事例として、P&GやGoogleといった外資系企業やYahoo Japanといった日本企業などでも導入されている。スタンフォード大のd.schoolが有名で、シリコンバレーのスタートアップにも多大な貢献をしている。

【オープンイノベーション】P12

イノベーションを促進するために、内部と外部の技術やアイデアを積極的に活用し、新しい価値を創り出すこと。

【VUCA】P12

「Volatility（変動性）」、「Uncertainty（不確実性）」、「Complexity（複雑性）」、「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を繋ぎ合わせた言葉。あらゆる環境がめまぐるしく変化し、先行き不透明で将来の予測が困難な状態を表す。